

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104365
法人名	有限会社 ベストケアライフ
事業所名	グループホーム かわかみ
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町1854番地1 (電話) 099-243-7735
自己評価作成日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍であっても人間らしく、一瞬一瞬の喜び、悲しみ、楽しみ等を入居者と職員がともに過ごし心を通えるような生活支援を心掛けている。立地的な環境の元、気候の良い時季には中庭を活かした散歩、日向ぼっこをはじめ、花見等のイベントを小規模ながら事業所内で取り組んでいる。家族との関わりが希薄になっていく一方であるこの状況下にも関わらず、電子ツールを利用したオンライン面会をはじめ、活動の様子を把握していただけるような静止画(写真)、動画をこまめに送る事で出来ている事、出来なくなっている事もより解りやすいように情報の提供を行っている。長年勤めてくれているスタッフが馴染みの環境である為、入居者にとっても人的環境が不安定になる自体が少ないといえる。職員間では、日々更新される入居者の身体・精神状況の把握のために、グループライン等を活用し、状態の共有、医療側との進捗状況、服薬調整への配慮、様々な点での統一が逐次できるようになってきた。職員間での議題を各種設けた勉強会を通じて、受動的に成らず積極性を持って研修に参加する気持ちを育てていると思われる。よりスタッフ間での力量の差を縮め学びを深めながら介護技術、知識の定着、レベルアップを図る工夫を研鑽したいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所はコロナ禍での家族との関わりをラインツールを利用したオンライン面会、毎日ラインで食事の様子や活動の様子、生活状況を動画や静止画を送り現状報告し、家族の安心につながっている。毎月、「かわかみだより」を発行して生活や健康状態を報告し意見を聞く機会を設けている。
- ・職員の離職率も低く家庭的な雰囲気の中で利用者寄り添い、コロナ禍で外出支援は難しい状況であるが、中庭での花見や散歩・外気浴・テラスや窓際で日光浴支援をしている。
- ・毎月の勉強会では担当者が課題について情報収集から資料作成まで準備し、発表し学びを深めている。職員は積極的に学習し質向上につながっている。
- ・職員間も仲がよく、グループラインを活用し、日勤帯でホーム日誌を送り全員で情報共有し安心して勤務に望めている。申し送りの短縮に繋がっており、利用者との関わりを多くしている。
- ・管理者や副ホーム長は、職員の意見を取り入れて働きやすい職場環境作りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の安心安全を常々念頭に入れた支援を心掛け、入居者と職員相互的に助け合って暮らしを続ける意義を理解している。	理念は事務所や玄関に掲示しパンフレットにも掲載し、毎月職員会議で理念を確認し振り返って支援に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍での接触を相互的に避けた状況であるも地域密着型サービス事業所として一体感の責務を全うしていきたいと考えている。再開を検討中である。	町内会に加入し回覧板で情報を得ている。コロナ禍で地域行事も自粛中であるが清掃活動に参加している。日常的に挨拶交流はしている。家族からの差し入れ等がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の民生委員や前町内会長等の方々とのつきあいを通じて地域で困っている方の事例を教えていただく事で次へのステップの足掛かりを検討するなど行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族は状況を見ながら開催出席を促し運営サービス内容の説明などを行うが、コロナ禍になり外部者を招集するに至っていない。	定期的に内部関係者のみで開催し、課題を決め面会について等の意見交換しサービス向上に活かしている。1回のみ家族参加の対面開催を行い、入居者の重度化が進んでいる現状の報告、ヒヤリハットなどを一覧にして、報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>様々な事案の相談をさせていただいている。党事業所での困難事例などはこれまでの取り組みを報告し、助言を貰い改善に努めるなど実施してきた。</p>	<p>市担当者とは、直接窓口に出向き書類提出や更新・ホームの活動状況など報告し、電話でも相談し助言を貰うなど連携や協力関係を築いている。福祉担当者の訪問や電話で情報共有している。市主催の研修会はオンラインで参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>厚労省の手引きを元に身体拘束がどのようなものなのか、それをするによる身体・精神両面の弊害を想定しながらどうしてえいけば良いのかを事業所一丸となって考え取り組むようにしている。</p>	<p>マニュアルがあり定期的に身体拘束委員会で基本の確認、スピーチロック、転倒の事例や虐待等の研修会を開催している。必要時、言葉遣いについての勉強会を実施している。日中の玄関施錠はせず、外出希望の場合、中庭に出て一緒に散歩したり、ゆっくり話をする等、個別に対応している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員の勉強会で各人が学びの機会の中で本件も取り扱うようにしておりどのような事が虐待にあたるのか、特にスピーチロックに重点を置いて皆で検討し、学びを深める努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年度は勉強会の中でも取り上げたが、現況として制度への理解は深まっていない。当事者になる事例が実際ある場合でなければ定着が難しいため、機会を作り再度学ぶ場を設ける予定でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はどうしても緊張や初めてのことで深い理解をしていただくには難しいと思われる。事例を用いて各事項を丁寧に説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍での外部者を交えての会議等が予定を組むことが難しい。年1度は状況を鑑みながら開催できるよう努め、アンケート調査等を含め意見の集約を心掛け反映するようにしている。	利用者からは日々の関わりの会話から意見や要望を聞いている。家族からは年1回のアンケートや面会時に状況報告し意見を言える機会を設けている。毎月のたよりで、健康や生活状況を郵送報告し、意見を聞き、その都度対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営方針は職員会議などの場を通じて伝えている。方針に向けて現状何が出来るのか、改善点の洗い出し、試行を繰り返し行っていくながら職員の思いに近い方向性を導き出すように努めている。	副ホーム長や管理者は職員会議で意見や提案を聞く機会を設けている。申し送りや日々の関わりでも声かけし意見を言いやすい雰囲気作りを心がけている。管理者は個別の相談にも対応し、代表者に報告し電動式ベッドへの変更や縦ポール式の突っ張り棒の取り付け等、意見を支援に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人員不足、加齢が負担となり各職員に無理をさせていると思う。環境整備、求人を常に積極性を持って率先して進め実績を各々が見出し易くしていきたいと思っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会いにおいて各分野で各々が考える議題（テーマ）別の学びを今年度は取り組んでいる。各人が調べて発表をし、日頃のケアに反映しているよう工夫をしている様子がわかる。法人外での研修への参加も徐々に拡げ新しい事を吸収できるよう進めていく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入しており会主催の研修会などを通しネットワークが広がっている。事例検討発表等により各施設での困りごと、対策などよく分かる場として活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を聴いたり本人の不安や思い等を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を聴く。要望に近づけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の現状など必要なサービスの利用も一緒になって検討するよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご本人になるべくしてもらいどこから出来ないのかをしっかりと見極めをして支援をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月1回のかわかみだよりで報告をしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>電話やオンライン面会等で必要に応じて対応している。</p>	<p>オンライン面会、状況に応じて対面面会での交流、毎日ラインでの動画や静止画で生活状態を報告している。電話や年賀状の取次等、馴染みの人との関係が途切れない支援に努めている。持ち込みの携帯電話で自由に家族等と交流している。定期的に馴染みの訪問理美容を活用している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お茶屋レクリエーション等で一緒に過ごす時間を作っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約の終了後には、その後を家族に便りを出したり医療機関等に様子を尋ね、再相談を受ける等も受け皿がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の本人の訴え、要望は勿論であるが何気ない会話からも何を思っているのか等聴き把握できているようにしている。	日々のケアやレクリエーション時・入浴時に何気ない会話などで声かけして思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合は声かけ時の反応で簡単な返答や気分の良い日での変化を職員間で意見交換して、必要時は家族に相談して、本人の思いに添うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で過去の仕事、生活の話題、家族との思い出を聞きながら少しずつ把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、様々な記録により本人の状態を把握、出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、ユニット会議等で意見交換し状況にあっているか、ズレが無いか、継続課題かどうか等を確認し合っている。	本人や家族の意向を聞き、職員会議やユニット会議等で課題を確認し、訪問診療時の主治医の意見や利用者の持てる力、趣味を反映させた介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に、6ヶ月で見直しをしている。状況変化時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケア記録等で必要な事などを記載し、共有事項は業務日誌やホワイトボード等を活用して共有できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>病院受診などの外出を支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議の場でこれまでは地域住民等呼んで情報交換していたが、現況は難しい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望する雇いつけ医にも必要に応じて受診できるように支援している。訪問診療も受けながら専門科の外部受診も同行したり調整するなど支援している。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関と事業所の関係を築きながら情報提供書持参で家族同伴の定期受診、2週間に1回の訪問診療、歯科の訪問診療等、24時間連携対応で適切な医療を受けられるよう支援している。訪問看護による週2回の健康チェックや必要時の往診もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調などの変化、排泄チェック等定期的な訪問時にアドバイスを貰うようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院と連絡をとり本人の状態ですべて早期退院が叶うよう受け皿としてスタッフ間のケアの準備、設備（福祉用具）も事前情報を元に揃えられるよう留意している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人様が一番良い形が何なのかを家族、医療側、事業所が一緒になって考え、話し合いを進めている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針を作成し、家族に説明している。重度化した場合、再度説明し同意書を貰っている。状態変化時、主治医からの病態説明を行い、家族の意思を確認し方向性を共有し、主治医・訪問看護師・家族・職員と連携しながらチームで看取り支援をしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>医療講習会や勉強会など定期的に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練、消火訓練等数名の入居者の協力を貰いながら職員が体で覚えられるよう訓練している。</p>	<p>年2回、昼夜想定防災訓練を実施している。消防署立会の通報避難誘導・消火訓練を実施し総評や質問に対してのアドバイスを貰っている。地震想定での避難訓練を入居者の協力を得て職員が体で覚えられるよう手順や避難経路・避難場所が中庭であることを確認し訓練している。地域住民との協力体制作りをしていく計画である。備蓄として、米・水・乾麺・缶詰・菓子類等がある。自家発電機・カセットコンロ・懐中電灯・防災頭巾なども準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>性格に合った環境を作り個々に応じた対応を行っている。</p>	<p>マニュアルがあり年1回研修会や必要時に勉強会で言葉遣い等を学んでいる。トイレ誘導時、声掛けの工夫、使用時はドアを閉めて時々声かけしている。入浴時も羞恥心に配慮する等、利用者の特性に応じた対応をしている。入室時はノックや声かけをしている。呼称は希望に応じて対応している。更衣時の洋服も自分で決められるよう選択している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>表現できない（言葉で発言）方においても押しつけをせず一緒に考えて声掛け誘導していくようにする。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人のどうしても意志が強かったり場に合わない事を要求する場合もあるため、時には意に沿えないこともある。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>服を選んだり髪を整えるなど身だしなみには配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じテーブルで会話をしながら食事やお茶を楽しめるように話題を変えて支援している。	普通食が多く、嚥下機能に応じて刻みやトロミ食で提供している。季節の行事食も散し寿司やお節も盛り付けを工夫し、食べることが楽しめる様にしている。誕生日には食べたい物としてすき焼きが多く、ケーキ・プリンなどを提供している。コロナ対策で利用者の手伝いは控えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事作りを心掛けて水分量を記録してチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促し自立でできない方には必要な介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれに声掛けを行っている。おむつ使用者が多い為、時間ごとの交換で陰部洗浄など衛生管理を行い、出来るならばトイレ誘導し尿意便意を促すよう行動させる等支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間帯でトイレ誘導し尿意や便意を確認できるよう排泄支援をしている。おむつ使用者が多く時間毎に交換し陰部洗浄で清潔を保持している。おむつから日中はリハビリパンツとパットに変更になった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、ヨーグルト類の食べ物の工夫をし便通を促すような腸活の運動を取り入れるなどしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の曜日は決めてあるが一人一人の体の調子で支援している。	週3回、身体状況に応じて浴槽またはシャワー浴や足浴支援をしている。時間帯は午前中または午後の時もあり順番は状態に応じて変更している。週1回寝たきりの利用者を全介助でシャワー浴支援している。嫌がる場合は声掛けの工夫、職員交代、時間をずらすなど、無理強いせず個別に対応している。必要に応じて清拭や陰部洗浄支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体の調子だったり食後、入浴の後などによく休まれるように時間を作ったり環境を整える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	数名一緒にとということが無いように個人ごとに服用させる。必ず確認、名前、日付、服用量、服用後も目視確認をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>家事手伝い（新聞折りや箱作り、衣類畳み等）や歌謡曲を歌うなどその方のその時の状態に合わせて準備している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>支援はあまり出来ていないが中庭の花見等散歩を取り入れながら室外の空気に慣れさせるように支援している。徐々に事業所から出た外出も個別対応で検討したい。</p>	<p>コロナ禍で年間行事計画は作成してないが状況を見て計画している。中庭での花見や散歩支援等で外気浴をしている。テラスや窓際での日光浴もしている。家族や職員による医療機関受診で外出している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>手元にお金を置きたいとの希望があれば居室内に所持していただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望によりリモートや電話で会話されている。手紙は本人に渡したり代読している。定期的にかわかみ便りを発行し施設の様子をお知らせするようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の作品などの飾り物を貼りっぱなしにせず五感の刺激になるように気を付けている。温度管理、太陽の光等も窓際で日が当たる場合は日光浴をさせていただく等自主的に出来ない入居者には特にそのように支援している。</p>	<p>ホールは常に換気を行い、遮光カーテンで適度の採光と消毒付き加湿器・エアコンで快適な環境を整えている。廊下や壁には季節に応じて利用者と職員の合作のちぎり絵や利用者の塗り絵等が飾られている。テレビやラジカセが有り、レクリエーション時は音楽をかけている。ソファや畳部屋でゆっくりしたり、テラスで季節を感じる等、自由に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>好きな場所で過ごせるように相性なども考えて工夫している。その日によって苦手意識を持つような相性がある入居者もおられる為、職員と一緒に輪を囲む等し安心させるような工夫もしている。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>希望の入居者にはテレビやスマホの持ち込みをしていただき余暇を楽しんでいただいております、居室で過ごしたくない方は都度様子を見ながらホールにお連れして過ごす等支援している。</p>	<p>全体の半数が電動式ベッドで、収納可能な畳ベッドもあり、状態に応じて使用している。タンス・エアコン・洗面台・クローゼットが設置されている。寝具類は持ち込みである。テレビやラジカセ・タンス・三段ボックス・椅子等もあり、家族写真や自作の塗り絵カレンダーが飾られ、携帯電話で自由に家族と会話する等、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、トイレには手すりを設け自立歩行のできる入居者が転倒なく過ごせるように工夫している。各居室に洗面台を設け洗面、歯磨きの出来る方は自立の生活を送っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない